

196	「私達の学年の先生達は本当によく話合っていると 思ったわ。」「どの先生も同じ様なこと言うねもん」 卒業式の後の生徒の一言。3年前、「こんな子ども達にして卒業させる」と話し合った学年集団 だった。正に集団と呼べる学年だった。「自分たち で考えさせて、させてみる」ことを大切に。時間 と任せる信頼が求められた。でも、それによく応 えてくれた子ども達。	197	「先どうぞ」と、本直しで牽制した女の子の姿が心 に残っています。	198	13歳で母と絶縁し、祖父母に嘆願し、祖父母との 生活を始めた子を担任させてもらった。その子の 日々の学びはまさに生き方の獲得であった。祖父 母の愛情にあふれた支えの中で感謝の心が芽生 えていった。1人の成長がクラスの成長、教師の成 長につながった。	199	2年目で担任した子どもたちです。初任のときに 学級経営がうまくいかず落ち込んでいたのです が、優しいあの子たちのおかげで、教師って楽しい など感じられることができました。
200	いつも笑顔で元気をくれています。	201	これまで出会った子供たちは、それぞれに个性的 で、私に元気をくれました。 支援学級で初めて担当した生徒は、卒業後40年 近く経っても年賀状を送ってくれます。	202	コロナ禍で学校行事や部活動が制限され、満足の いく活動ができない中、今自分達が出来ることを 考え、懸命に学校生活を送っている子どもたちで す。	203	高校を無事に決められたこと。
204	心とした、たわいもない小話を卒業式の日私に 「覚えているねん」と伝えてくれた生徒のことを覚 えています。嬉しさと同時に、どこでも、いつでも 注意して話をしなければいけないと、改めて意識 しました。	205	頑張り屋さんの中学3年の男子が、私と昇降口で すれ違った時に、コミュニケーションを取ろうとし て、「こんにちは。今日は寒いですねえ。」から始ま り、話を膨らまそうと一生懸命天気のお話をして くれる姿が可愛くて、ほっこりしました。	206	コロナ禍で初めての卒業式。 一斉休校により、卒業式の練習や三年生を送る会 などの集まる 機会がなくなりました。会えない日々が続き、卒業 証書の授与の流れ、 式の流れなど確認できないで、どのような式にな るか不安でしたが、 数少ない準備期間の中、しっかりと3年間を振り 返るいい卒業式に してくれた学年の生徒たちが印象に残っていま す。	207	今も連絡をくれる卒業生。 今年20歳になります。 20歳になったら、ご飯に行こう！という、 卒業式にした約束を果たせる日が もうすぐそこまで来ています。 コロナに負けず、その日が来るよう願っていま す！
208	産休に入る私に、数学の難しいテスト問題(なぞな どもあり)をだして、キーワードが分かれば教室へ 持ってくるようにと、逆に課題をもらった。 教室にいくと、サプライズで拍手で迎えられ、色紙 を用意してくれていて、温かく送り出してくれた。	209	四肢に不自由のある生徒が卒業後の進路先の事 業所で初めて作ったという、 ミサンガをプレゼンとしてくれた事がありました。 何日もかけて 作ってくれた、初作品。今でも職場の机にしまって あります。	210	初めは出来なくて「先生やってください」と言っ ていた子が、ある日ずっと出来て私に「先生みて！ できたよ！」と自慢げな顔で見せに来てくれたこ とが心に残っています。	211	保健室へよく来る男の子。その日は機嫌が良くな いので話を聞いていると…昨日家で外食しよう！ ということになって、家族それぞれに行きたいと ころを言い合っていたけど、自分だけ「行きたくな い」と言ったら怒られた。でもよくよく理由を尋ね ると「ママのごはんが一番好きだから行きたくな かった。怒られたから理由も言えなかった。」との こと。彼には悪いけど、ちょっとほっこりしていま いました。
212	友だちがバケツの水をこぼした時も、牛乳をこぼ した時も、廊下でおもらししてしまった時も、そっ と黙ってぞうきんを取りに行き、黙ってそっと拭 いていた一年生たちを忘れることができません。	213	低学年の担任が多かったので、参観日にお母さん が来てくれないと、教室から出ていってしまう子 がいました。寂しかったのでしょうか。教室に連れ戻 すのが大変でした。 トカゲの好きな男の子が、遠足に出かけると、トカ ゲを捕まえて、「先生持ってて。」と言ってたくさん 手に持たせてくれました。おかげでトカゲを素手 で持てるようになりました。	214	年度末、図書館の蔵書点検を図書委員と一緒に やっていた。3年間図書委員の生徒は、卒業してか ら手伝いに来てくれた。その彼女は、今、大学図 書館の司書をしている。嬉しいかぎりだ。	215	発表会を取り組む子どもたちが絵本の内容を少し ずつイメージしながら、友達同士で、話し合い時 には葛藤しながら作り上げていく子どもたちの素敵 な姿は育ち合う最高の宝物だと思いました。
216	不登校から奮起して学級に登校するようになっ た。 そして、その生徒を囲む生徒達の自然な受け入れ 方ができたこと	217	併願、専願、特色、一般とどの試験とも、誰もが不 合格者を出すことなく全員合格したことです。	218	勉強熱心で真面目で努力家	219	先生に出会わなかったら今の自分はいませんと 言って卒業してくれた生徒が沢山います。
220	中学校で部活動(女子バスケットボール部)の顧問をしていたときの部員(生徒)が、卒業文集に書いてくれた ものを、お守りとしてずっと財布に入れてあります。私のことを「元気でおもしろい先生」で尊敬する先生と書い てくれました。その文集の中に「先生がいると、部活の雰囲気がいっそうよくなり明るくなるので、太陽みたい な存在です」や「有言実行で、みんなに信頼される先生のような人に私はなりたいです」という言葉がありま す。私は今まで、自分のことを有言実行できる人間とは思っていませんでした。一人の生徒でも、私の ことをそう思ってくれた生徒がいたことは、私の教員人生の誇りと自信になりました。その生徒とは、今も連 絡を取り合っています。私は妻に、財布に入れてお守りの文集を、私の棺桶に入れてねとお願ひしていま す。	222	0				